

ドライブレコーダーに記録された映像・画像は動物調査に活用できるか

藤田宏之（埼玉県立川の博物館）

はじめに

近年、自動車には車載カメラであるドライブレコーダーの設置が急速に普及している。本来の用途は交通事故やあおり運転、車上荒らしなどの犯罪を映像で記録することであり、マスコミ等でもその証拠映像が取り上げられるなどして、一般にもおなじみのツールとなっている。ドライブレコーダーは自動車のエンジンの始動中は常に稼働しており、走行中に撮られた映像には道路を横断する哺乳類や、路上に降りた鳥類なども残されていることがある。

ドライブレコーダーを活用した先行研究としては、北海道におけるエゾシカの衝突事故防止に関する研究が挙げられる（澤田, 2025）。しかしながら、動物の日常的な往来による分布調査やルートセンサスに活用した事例は見当たらない。

筆者は、職場である埼玉県立川の博物館へは自家用車を使って通勤しているが、ほぼ同じルートを繰り返し往来している。本稿では、自家用車に取り付けたドライブレコーダーの映像を、定点記録、ルートセンサス、自然誌データとして活用できるかを考察する。

調査方法

この調査は、計画的なルートセンサスでは

なく、通勤等の日常的な往来の際、ドライブレコーダーによって撮影された映像から動物類の記録を集積したものである。

期間は2025年10月15日から2026年1月28日までの50日間、調査は寄居町小園地区から深谷市瀬山地区間にて実施した。

ドライブレコーダーは2台の自動車に1台ごと設置した。使用機材はケンウッド社製 DRV-340をワンボックスタイプの商用バンに、コムテック社製 HDR003を軽四輪駆動車に取り付けて運用した。仕様はどちらもカメラを前方のフロントガラスに取り付けたタイプである。ケンウッド社製 DRV-340は日時と位置情報が表示され、コムテック社製 HDR003は日時のみが表示され、マイクロSDカードに映像が書き込まれる。

種の同定は目視確認とし、映像は日時と動物の行動を確認するために使用した。

結果

約3か月のうち、調査区間にて動物類が18回記録された（表1）。このうち、哺乳類は17回、鳥類は1回であった。記録された地点は荒川本流上流側の右岸エリア（図1）と下流側左岸エリア（図2）に分けて示した。

記録された動物類は7種で哺乳類のタヌキとイエネコが6回で最多、ネズミ類（1回の

表1. ドライブレコーダーに記録された動物類

区間	日付	時刻	種名	学名	所在地	動物の行動	周囲の環境	
荒川右岸	2025. 10. 18	18:42	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	寄居町赤浜	道路を横断して茂みに入る	河川敷・工業団地	
	2025. 10. 18	18:44	イエネコ	<i>Felis catus</i>	寄居町赤浜	河川敷に止まる	河川敷・工業団地	
	2025. 11. 1	18:26	タヌキ	<i>N. procyonoides</i>	寄居町赤浜	道路を横断して茂みに入る	河川敷・工業団地	
	2025. 11. 5	8:13	イエネコ	<i>F. catus</i>	深谷市昌山	道路を横断して住宅地へ	住宅地・田畑	
	2025. 11. 16	18:37	アナグマ	<i>Meles anakuma</i>	寄居町赤浜	ロードキル（うつ伏せ）	工業団地・住宅地・田畑	
	2025. 11. 21	19:12	タヌキ	<i>N. procyonoides</i>	寄居町鉢形	道路沿いに走り、茂みに入る	住宅地・田畑	
	2025. 11. 23	16:17	イエネコ	<i>F. catus</i>	寄居町男衾	道路を横断して住宅敷地内へ	住宅地	
	2025. 11. 23	18:31	タヌキ	<i>N. procyonoides</i>	寄居町赤浜	道路脇から茂みに入る	河川敷・工業団地	
	2025. 11. 24	8:00	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	寄居町赤浜	路上から飛び立つ	河川敷・田畑	
	2025. 12. 5	19:04	アカギツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	寄居町赤浜	道路を横断して茂みに入る	河川敷・田畑	
	2025. 12. 7	21:47	タヌキ	<i>N. procyonoides</i>	寄居町赤浜	道路を横断して茂みに入る	河川敷・工業団地	
	2025. 12. 17	20:27	アカギツネ	<i>V. vulpes</i>	寄居町赤浜	道路を横断して茂みに入る	河川敷・工業団地	
	2026. 1. 8	20:03	イエネコ	<i>F. catus</i>	寄居町小園	博物館敷地から道路を横断し茂みに入る	博物館敷地・斜面林	
	2026. 1. 16	19:38	タヌキ	<i>N. procyonoides</i>	寄居町赤浜	河川敷の草地から茂みに入る	河川敷・田畑	
	2026. 1. 28	19:56	イエネコ	<i>F. catus</i>	寄居町赤浜	河川敷に止まる	河川敷・工業団地	
	荒川左岸	2025. 10. 15	20:07	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	深谷市田中	道路を横断して茂みに入る	住宅地・田畑
		2025. 10. 21	20:36	ネズミ類		深谷市長在家	道路を横断	住宅地・田畑
2025. 11. 10		19:11	イエネコ	<i>F. catus</i>	深谷市長在家	道路上に止まり、その後住宅地へ	住宅地・商業地・田畑	

み) は目視・映像の両方で確認できたが、種の同定はできなかった。花園大橋とアンダーパスで交差する寄居町赤浜の工業団地付近では、タヌキ5回、アカギツネ2回、イエネコ

2回、アナグマ1回、ハシボソガラス1回が記録され全記録の半分以上を占めた(図1)。また、18回のうち15回は日没後の記録であった。



図1. 荒川右岸でドライブレコーダーに記録された動物類



図2. 荒川左岸でドライブレコーダーに記録された動物類

考 察

筆者はこれまでに寄居町赤浜の工業団地付近にて幾度もタヌキを確認していたが、手持ちのカメラで撮影できた機会は少ない。車内で動物類を確認し、それをカメラで撮影しようとしても、車の気配で瞬時に茂みに隠れてしまい、カメラのシャッターが間に合わないことがほとんどである。遭遇率の高いタヌキにおいても、疥癬症で動きが鈍っている個体以外は撮影に至っていない。また、動物類の出没は夜間が中心であるため、目視での探索やカメラでの撮影は難しい。

一方、ドライブレコーダーは昼夜を問わず路上で遭遇した動物類を撮影できるだけでなく、撮影日時も記録される。ケンウッド社製DRV-340はさらに、映像内に位置情報も表示されることから、調査データとしての信憑性は高い。

しかしながらドライブレコーダーの映像は、広角レンズで撮影されているため、対象物との距離が離れていると小さく写ってしまう。その映像をキャプチャした場合、不鮮明になってしまい、トリミングで拡大した場合でも目視確認した当人でない限り、識別が難しい(図3～6)。

例えば図5のイエネコは、川の博物館周辺に長期間居つき、ヒガシニホントカゲを捕食している姿が園内に設置したトレイルカメラの映像で確認されている個体である(藤田・奥村, 2021)。しかし、キャプチャ画像で個体を識別しようすると難しく、かろうじて動画の映像から判断できるかどうかのレベルである。

深谷市長在家ではネズミ類が記録され、映像でも道路を横断しているのはネズミ類であることが確認できる(図6)。ネズミ類としては大型であったが、タヌキなどに比べると体サイズが小さいため、車内からの目視でも同定は不可能だった。

また、鳥類では地上から飛び立つハシボソガラスが記録された。映像での同定は困難だったが、車内からの目視で同定できた。鳥類はおおむね小型で動きが速いため、記録可能な種が限定される。例えば、体サイズも大きく路上にも頻繁に降りるキジやヤマドリなどは、ドライブレコーダーでの記録が可能で



図3. 道路を横断するタヌキ
(2025. 10. 18 寄居町赤浜)



図4. 道路を横断するアライグマ
(2025. 10. 15 深谷市田中)



図5. 川の博物館南側の道路を横断するイエネコ
(2026. 1. 8 寄居町小園)



図6. 道路を横断するネズミ類
(2025. 10. 21 深谷市田中)

あると考えられるが、小型のスズメやカモなどの水鳥、樹上高く止まる猛禽類などは難しいであろう。

図7は今回の調査ではないが、北海道浦幌町で得られたアカギツネの日没前のキャプチャ画像である。撮影時に自動車を減速させ、2～3mほどまで接近しても、画像ではアカギツネが小さく写ってしまっている。また、ドライブレコーダーでの夜間の撮影は、自動車のヘッドライトの反射や、ヘッドライトの照射範囲外では暗くなるなどの欠点もある。また、暗視カメラであるため画質も昼間よりかなり低下してしまう。

機材の性格上限界はあるが、動物分布調査やルートセンサスにおいて、補完的役割としてドライブレコーダーの有用性は高いと考える。詳細な日時や位置情報の記録が得られるだけでなく、動画を見直すことで調査者（運転手など乗務者）が目視した場面の状況や、出没した動物類の行動などを再確認できる。

このように、ドライブレコーダーはごく一般に普及しており、入手も容易な機材であることから、今後もさらなる活用法について考えてみたい。



図7. 道路脇に出てきたアカギツネ
(2025. 12. 27 北海道浦幌町)

引用文献

- 藤田宏之，奥村みほ子（2021）川の博物館におけるイエネコによるヒガシニホントカゲの捕食と「ネコ問題」．埼玉県立川の博物館 紀要 21：33-36.
- 澤田 学（2025）ドライブレコーダーの映像からエゾシカ衝突事故を防止するヒントを考える．「野生生物と交通」研究発表会 講演論文集 第25回「野生生物と交通」シンポジウム．pp. 23-25.